

令和6年度 大阪府立伯太高等学校運営協議会 第2回議事録

令和6年10月26日(土) 10:00~12:00

記録：山下・亀田

協議会委員参加者（敬称略）

西田 芳正 （大阪公立大学教授）
田中 恒子 （地域教育相談員）
山野 正広 （和泉市総務部 人権・男女参画室長）
原田 尚史 （和泉市立和泉中学校長）
富永 順三 （ナレッジパートナー代表）
三ツ間 裕美 （PTA 会長）

学校教職員参加者

片山 造 （校長）
門内 順子 （教頭）
山本 勝利 （事務長）
横山 創一 （生徒指導部長）

1. 会長（西田 芳正）挨拶
2. 校長挨拶
3. 令和6年度学校経営計画の進捗状況（校長）
4. 生徒・学校の状況
5. 授業見学
6. 本校の教育活動に関する意見交換

[主な報告、質問、意見等] ◇は報告内容、○は質問、→は答え、●は意見や感想

3. 令和6年度学校経営計画の進捗状況（校長）

◇授業見学の実施

◇生徒指導

先生たちと話しながら生徒たちにあった指導をしていく

○校則の見直しについて

→「高校生らしい」「高校生として」といった文言を削除

頭髪のルールに時代にそわないものがあるので見直していく

◇進路指導

卒業後の進路だけではなく、その後を見据えた指導をしていく

◇企業研修の実施

今年度は4名の先生が参加。校内において報告会もおこなった

◇部活動の活性化

居場所づくりとして年2回の勧誘を積極的に行う

◇人権教育

ヤングケアラー

重大ないじめ事案は生起していないが、人権に関わる生徒の言葉づかいの指導が必要

○ケース会議の頻度、参加者は？

→月1回程度、関係の先生、SC、校長、教頭、養護教諭

○対象生徒は？

→現在数名

- ◇地域連携
 - 和泉支援学校高等部との交流（軽音・演劇・陸上・サッカー）
- ◇キャリア教育
 - 調理学校、保育、弁護士などの講話
- ◇教員研修
 - 12月に10年目までの教職員を対象にマナー講座を実施予定
 - ボッチャ体験も実施
- ◇働き方改革
 - 会議のペーパーレス化、定時退庁日など業務時間の軽減を試みている

4. 生徒・学校の状況

- ・次年度使用教科書について教育庁に申請済み
- ◇昨年度で新カリキュラムに移行、今年度は大きく変化なし

- ・生徒指導上の取組み
- ◇頭髪について
 - 「高校生らしい」頭髪の規則の緩和
 - 染髪、エクステ等の禁止はそのまま。祭り文化に伴う刈り込みは認める
 - 長期休暇中の染髪をしたいという生徒の声が多い→今後、検討していく
 - 実際に染めていた生徒たちの多くが休み明けは改善して登校している
- ◇通学指導について
 - ながらスマホや音楽を聴きながら等、危険な運転が多い、指導の強化が必要
- ◇服装指導
 - 男子生徒がシャツを着ず、Tシャツになる生徒が多い。制服業者と連携をとり制服の種類を選択肢を検討
 - 「我慢しなさい」という指導は通用しなくなってきている。粘り強い指導で改善を促す
- ◇授業環境
 - 現在の1年生は発言がとても活発。会話と発言の線引きが難しい
 - 授業中の立ち歩きも注意している
- ◇欠席遅刻
 - 6、9月に梅雨、祭りが理由で遅刻が多い。また、祭りの時期は欠席も多い
 - 悪気なく「雨やったから遅刻した」などの発言も見受けられる
- ◇懲戒事案
 - 喧嘩等は少なくなっている
 - 一方で喫煙、逃げる、認めないという生徒もいる
 - 素直さがなくなっている面が見受けられる先生の話の聞けない、信用できないと言う生徒も見られる
 - 生徒たちはこれまでとは異なる反応が増えている。適した指導が必要

●保護者としての意見

校則を明確化してほしい、グレーなところが多くわかりづらいので、子どもの声を聞くことも大切だが、ルール of 徹底はすべきではないか？

認めすぎてしまつてはズルい大人に育つてしまうので、そうならないよう育成してあげてほしい

●中学校現場としての意見

和泉中学校は制服か体操服か選べる状況

生徒・保護者の意見を聞きなが実施していくがどう理解していただくかが課題

○ひねちゃでの通学は大丈夫か？

→原付き扱いで校則違反、電動機付き自転車はその限りではない

○制服の夏服の着用する生徒がほとんどいない、グレー制服をベースに夏も着れるものも作り、現在の夏服を廃止しては？

○私語、立ち歩きが多い中、学校は対応(対策)をして欲しい

・3年生の進路指導状況について

◇今年度の特徴

例年より大学・短大への進学が増加、12月に調査を実施する

進学が増えている背景には、入学しやすさ、奨学金制度化がある

目的のない進学にならないよう最終的な進路を見据えて指導を行う

◇入試内容の変更

自分の持ち味を活かせる入試

従来、得点化できていなかったところを見る問題が出題されている

本校では、自分の描いたイラストのプレゼンやオープンスクールでの体験内容を討論などの指導を行った

試験＝筆記ではなくなつてきている。今後、総合的になつていくことが懸念される

◇英語外部試験の導入

検定試験を得点化する大学、短大、専門学校がある

◇専門学校

出願用紙の審査が通つた時点で内定という文言が使われている

専門学校での面接や試験の際に不適切な質問などが見受けられるため、学校・企業に守ってほしいルールの話に出向く必要がある

◇進学先の懸念事項

人が集まらず募集停止がとなる学校が出ている

閉校する学校が出ている一方で、新設学部を設立する学校もあり、両極化している

同じような学部が様々な学校で設立されているため、ガイダンスの際の区別が課題になる

◇就職生

本校への求人者数は増加している、ほぼコロナ前と同様の求人数に戻っている

業種、職種においては、求人が一極集中している企業がある

コロナ禍を越えて、自分のしたいことをめざす生徒が増えている

高卒求人を初めて出す企業の中には、就職規定やルールを知らない企業もある

○進学状況の割合は？

→専門：4割、大学・短大：2割5分、就職：3割

全体的に大学への進学者数が増加している

○専門学校でも落ちることはありますか？

→理美容等においてそのケースもある

6. 本校の教育活動に関する意見交換

- 先生にとって生徒や保護者との関わりが難しい時代。生徒の記憶に残るのは学校の全体より個々の先生や学年のことなので、厳しく言うときはしっかり言う、褒めるときは褒めるべき。そこが先生の頑張りどころだと思う
- 欠席・遅刻の母数が変わっているので、件数よりもパーセンテージを見るべきでは？生徒数が減少しているので時代にあった指標に変えていく
- 定員割れに伴って転退学は？
 - 近年2年は定員割れをしていないが、実際、定員割れをした年は転退学が増加する傾向も見られた
 - 次回のオープンスクールでは、実際に本校への受験を考えている生徒が来る。それを見据えて準備を進めていく
- 伯太の倍率は？
 - ここ数年定員を上回っている